

最近の経済動向

平成28年8月号

北海道の景気動向(平成28年6月の経済指標を中心として)

一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している

■需要動向(消費・投資)

- P 1 個人消費(百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、新車登録台数)
緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動きもみられる
- P 2 住宅建設(新設住宅着工戸数)
持ち直している
- P 3 公共工事(公共工事請負金額)
増加している
- P 3 観光(来道者数)
改善している
- P 4 輸出入(輸出入額)
輸出額、輸入額とも前年を下回った

■生産動向

- P 4 生産活動(鉱工業生産指数)
一進一退の動きとなっている
- P 5 企業倒産(件数、負債総額)
件数は増加したが、負債総額は減少した

■雇用動向

- P 6 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、有効求人倍率)
改善している
- P 7 失業(完全失業者数、完全失業率)

■物価動向

- P 7 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を下回った

■企業情報

- P 8 企業のみなさまから伺いました

■地域の経済動向

- P 10 道南圏、道央圏、道北圏、オホーツク圏、十勝圏、釧路・根室圏

■景気動向指数・全国の景気

- P 16 北海道の景気動向指数
- P 17 全国の景気

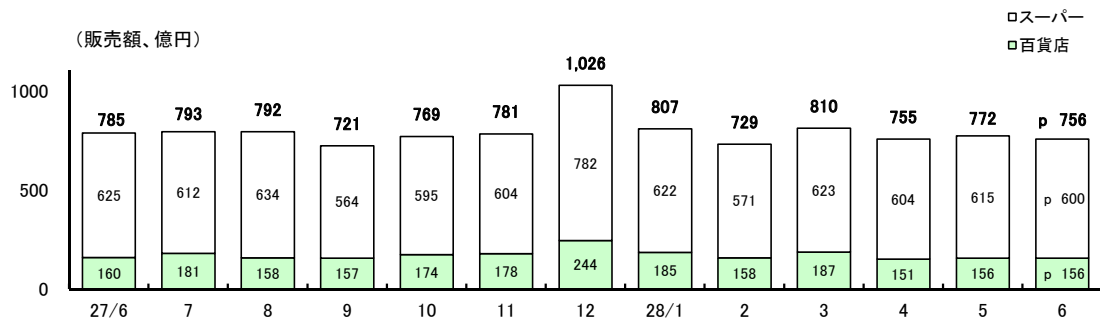
北海道経済部経済企画局経済企画課

[需要動向(消費・投資)]

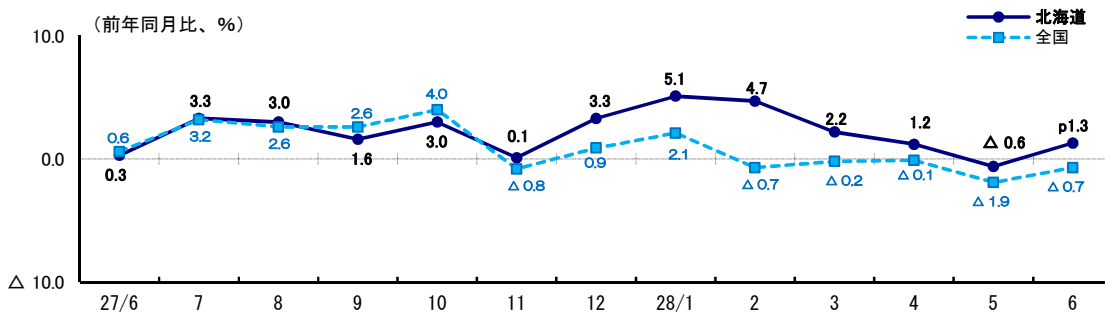
■個人消費～緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動きもみられる

◆百貨店・スーパー(全店)販売額(6月)◆

百貨店・スーパー販売額は、756億円で前年同月比1.3%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。



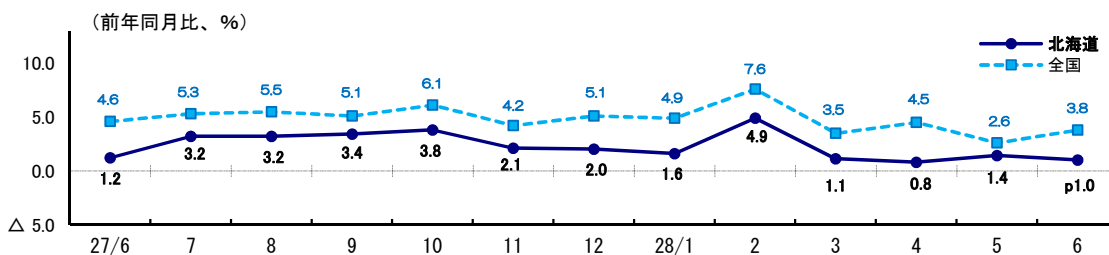
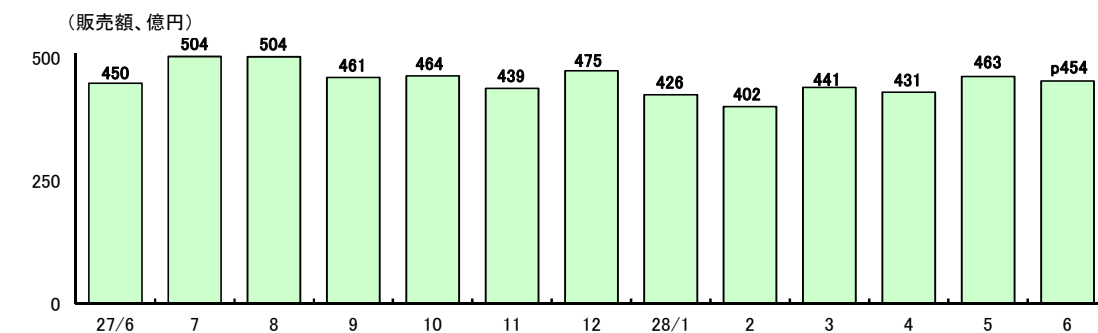
(注)「p」は速報値(以下同様)



(経済産業省、北海道経済産業局調べ)

◆コンビニエンスストア(全店)販売額(6月)◆

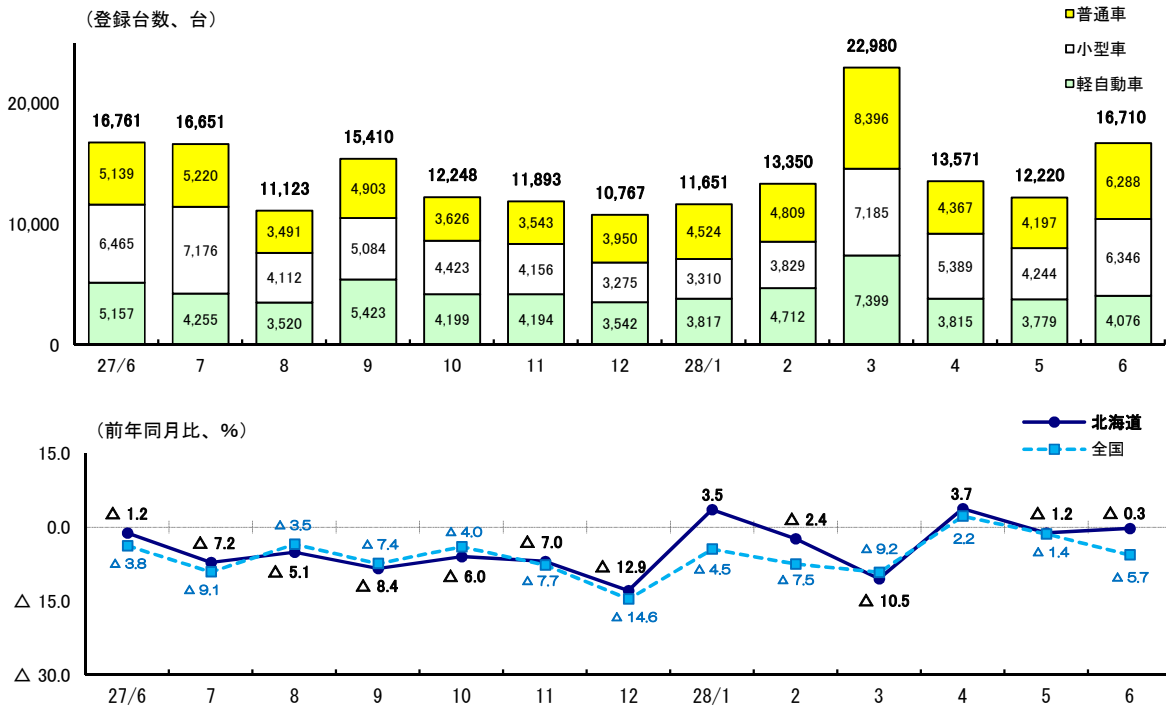
コンビニエンスストア販売額は、454億円で前年同月比1.0%の増加となり、33か月連続で前年を上回った。



(経済産業省、北海道経済産業局調べ)

◆新車登録台数（6月）◆

新車登録台数は、16,710台で前年同月比0.3%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。

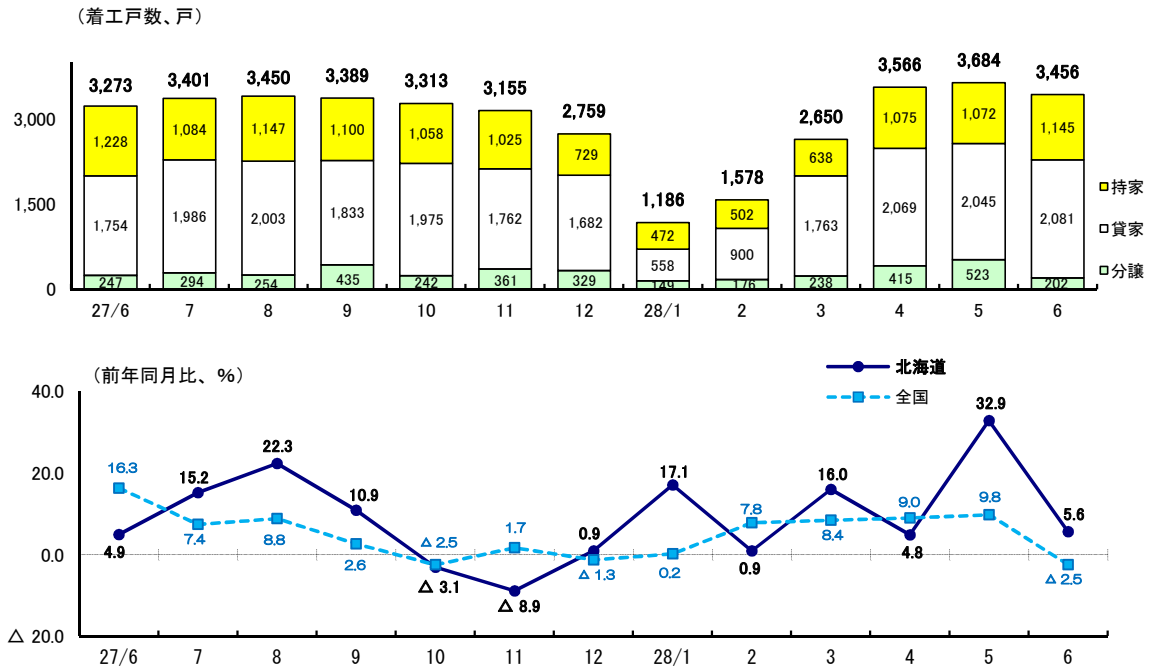


((一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会調べ)

■住宅建設～持ち直している

◆新設住宅着工戸数（6月）◆

総戸数は、3,456戸で前年同月比5.6%の増加となり、7か月連続で前年を上回った。

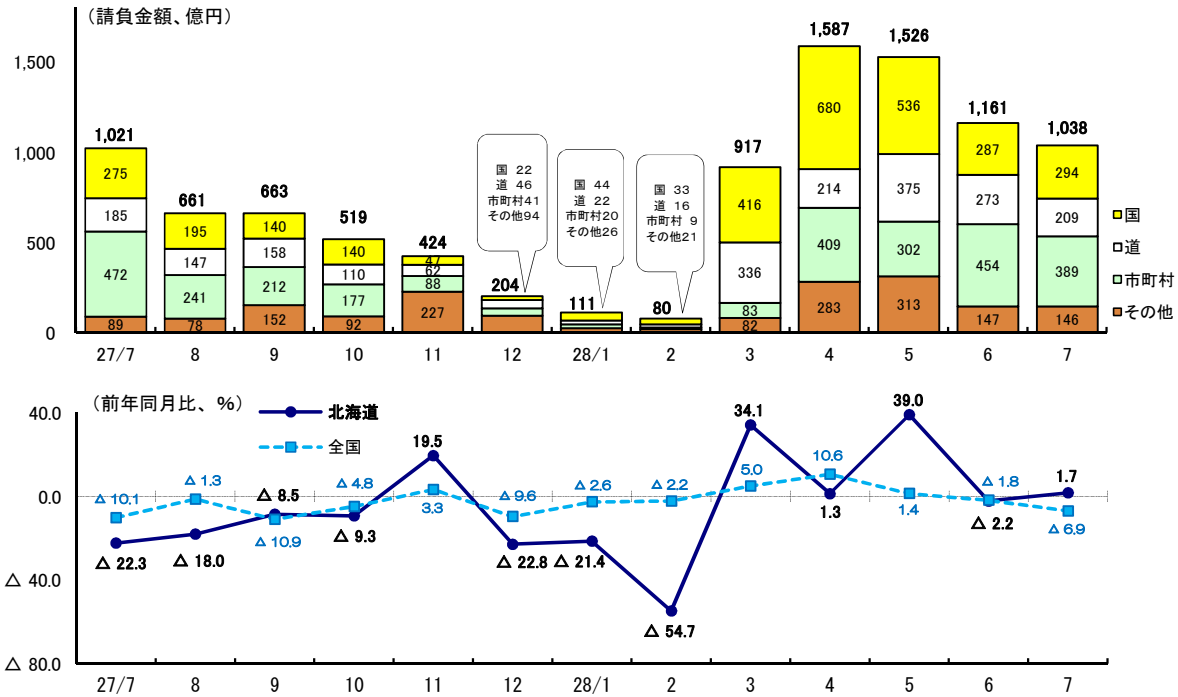


(国土交通省住宅局調べ)

■公共工事～増加している

◆公共工事請負金額（7月）◆

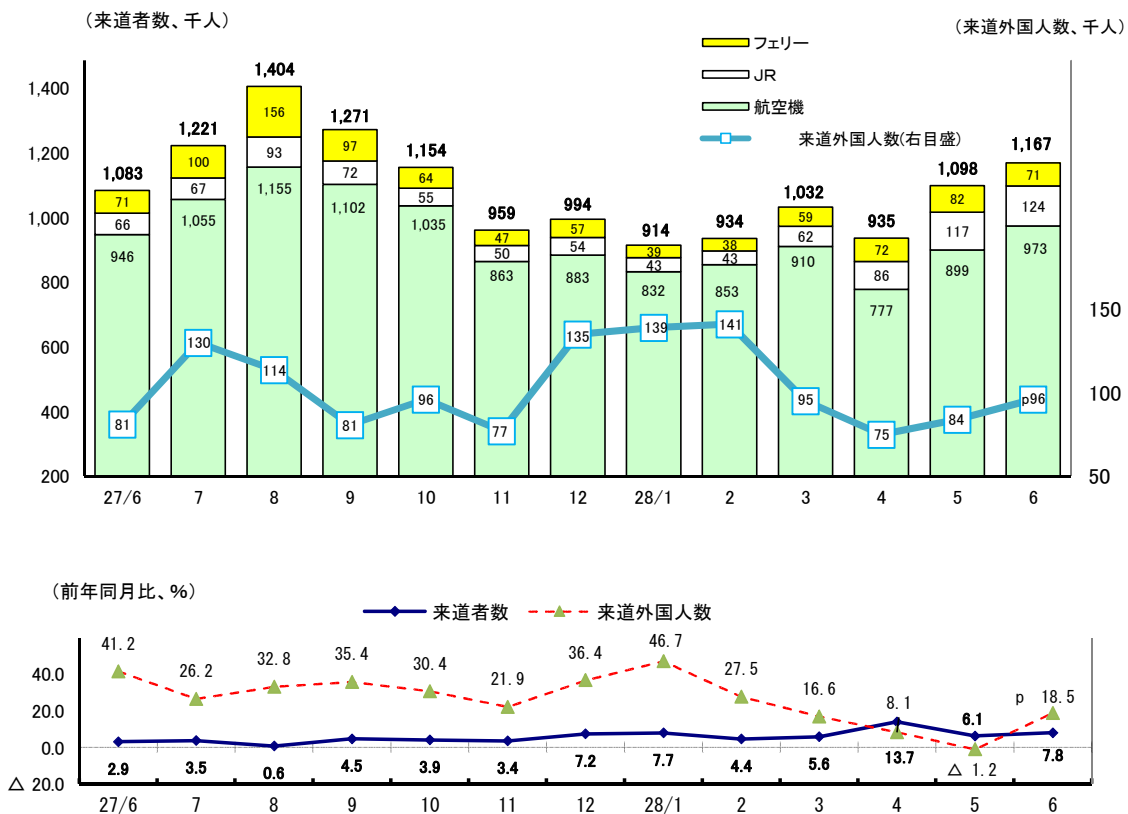
請負金額は、1,038億円で前年同月比1.7%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。



■観光～改善している

◆来道者数（6月）◆

来道者数は、116万7千人で前年同月比7.8%の増加となり、20か月連続で前年を上回った。
 本道に直接入国した外国人は、9万6千人で同18.5%の増加となり、2か月ぶりに前年を上回った。

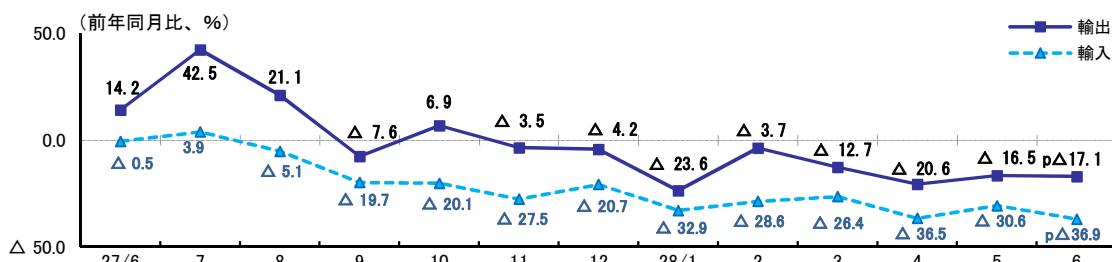
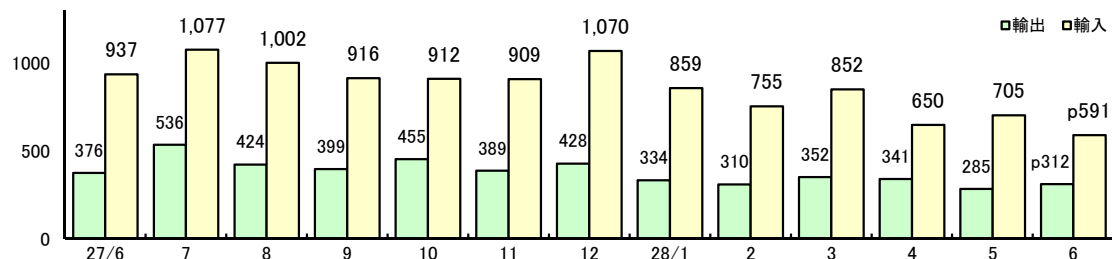


■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を下回った

◆輸出入額（6月）◆

輸出額は、312億円で前年同月比17.1%の減少となり、8か月連続で前年を下回った。
 輸入額は、591億円で同36.9%の減少となり、11か月連続で前年を下回った。

(輸出入額、億円)



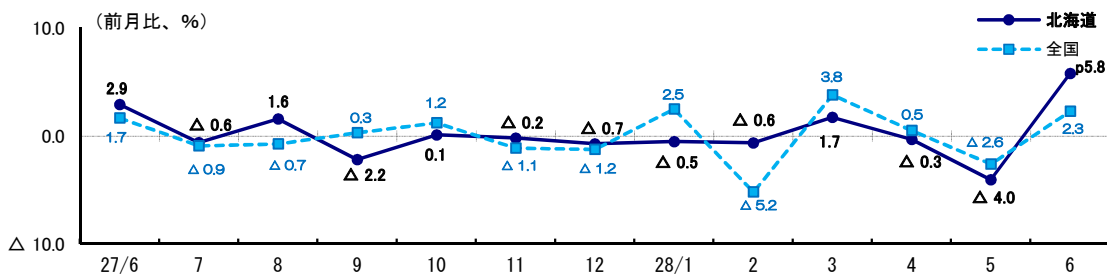
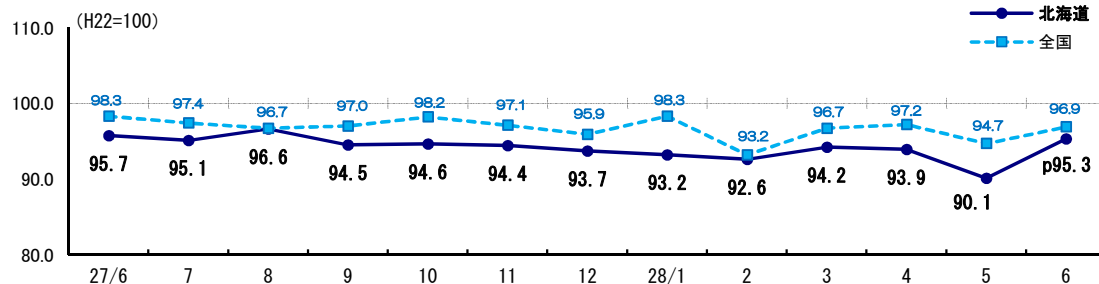
(財務省、函館税関調べ)

[生産動向]

■生産活動～一進一退の動きとなっている

◆鉱工業生産指数（6月）◆

鉱工業生産指数(季節調整済)は、95.3で前月比5.8%の上昇となり3か月ぶりに前月を上回った。

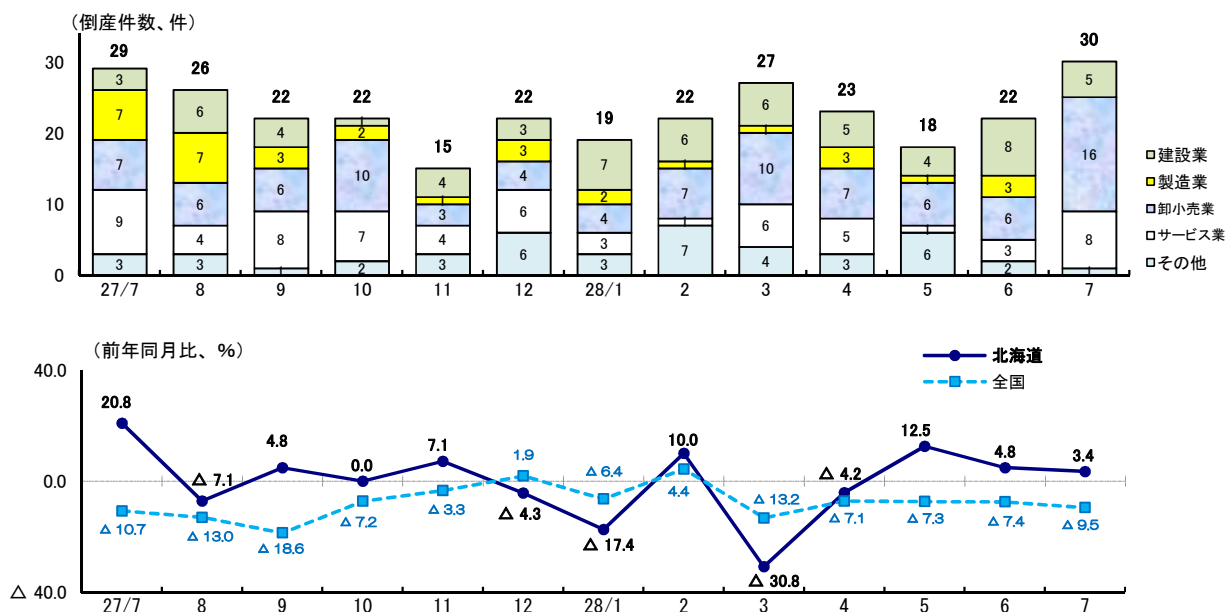


(北海道経済産業局調べ)

■企業倒産～件数は増加したが、負債総額は減少した

◆企業倒産件数（7月）◆

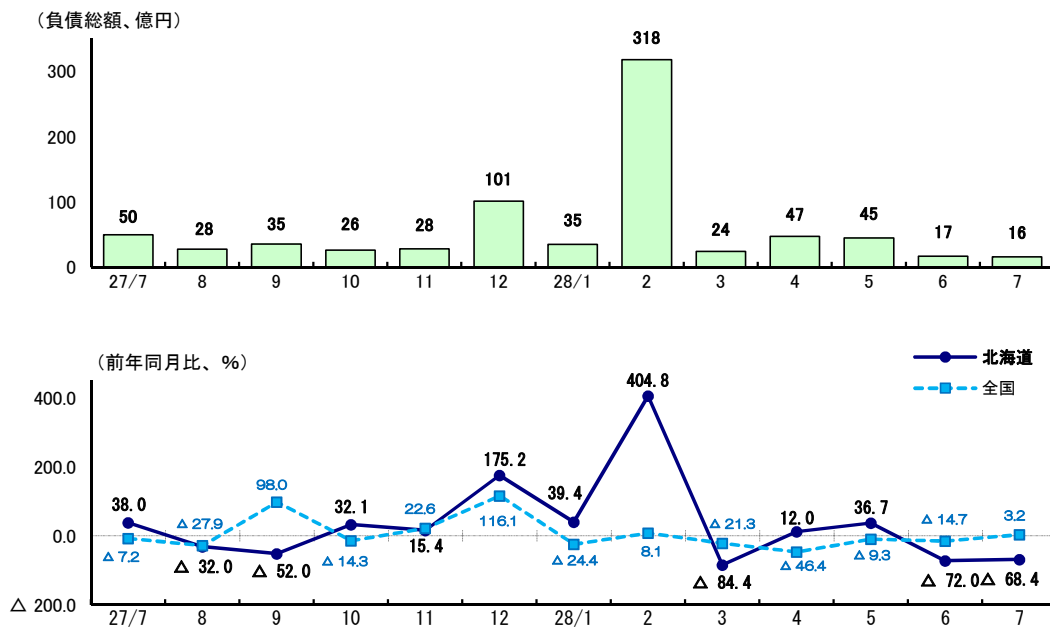
企業倒産件数は、30件で前年同月比3.4%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。



((株)東京商工リサーチ北海道支社調べ)

◆負債総額（7月）◆

負債総額は、16億円で前年同月比68.4%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。



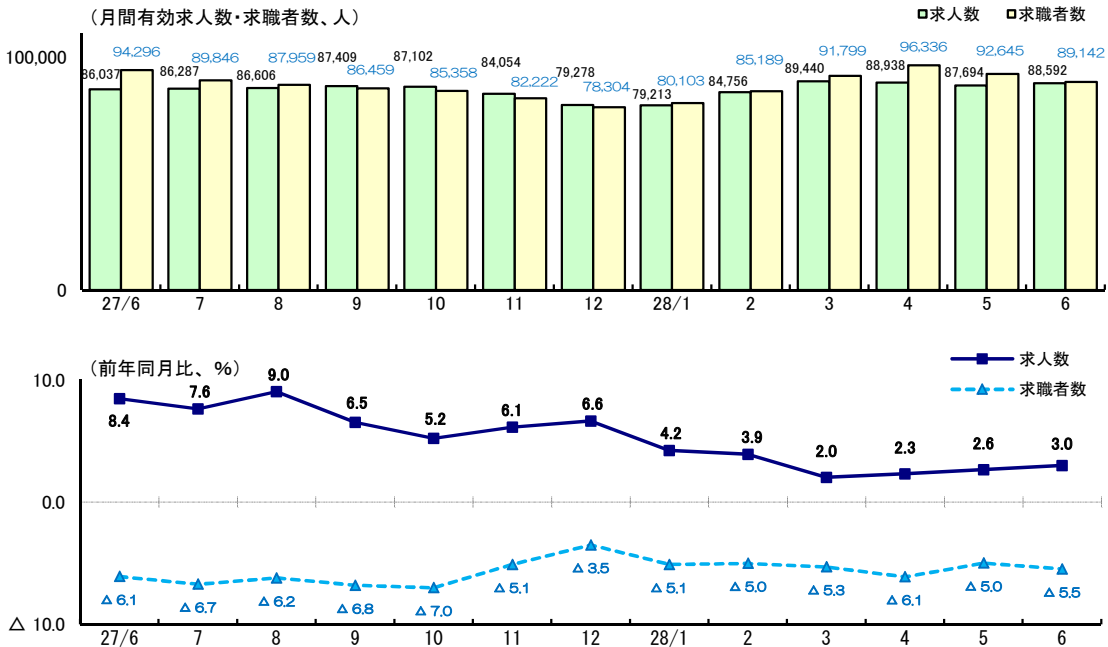
((株)東京商工リサーチ北海道支社調べ)

[雇用動向]

■求人・求職～改善している

◆月間有効求人人数・求職者数（6月）◆

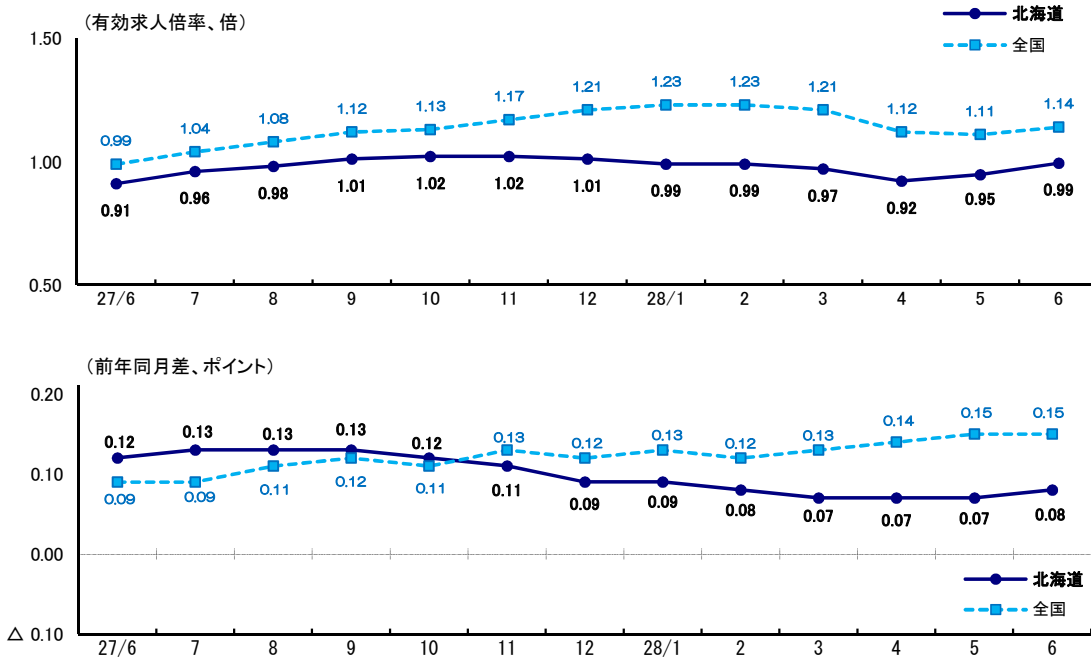
月間有効求人人数は、8万8,592人で前年同月比3.0%の増加となり、77か月連続で前年を上回った。
月間有効求職者数は、8万9,142人で同5.5%の減少となり、56か月連続で前年を下回った。



(厚生労働省及び北海道労働局調べ)

◆有効求人倍率（6月）◆

有効求人倍率は、0.99倍で前年同月差で0.08ポイントの増加となり、77か月連続で前年を上回った。

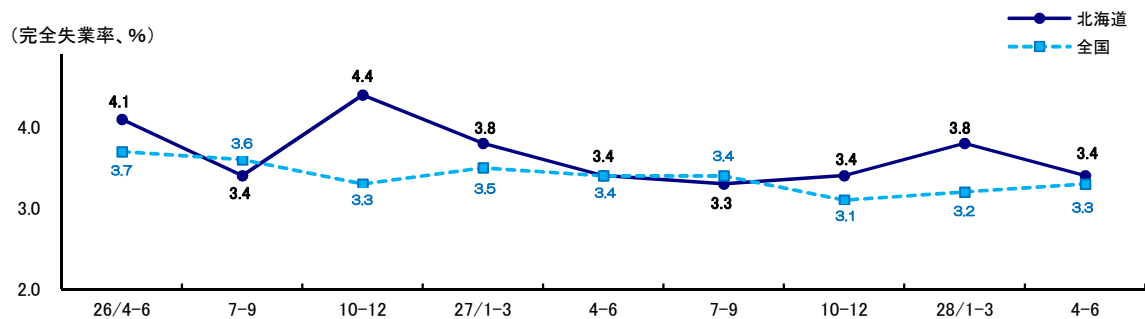
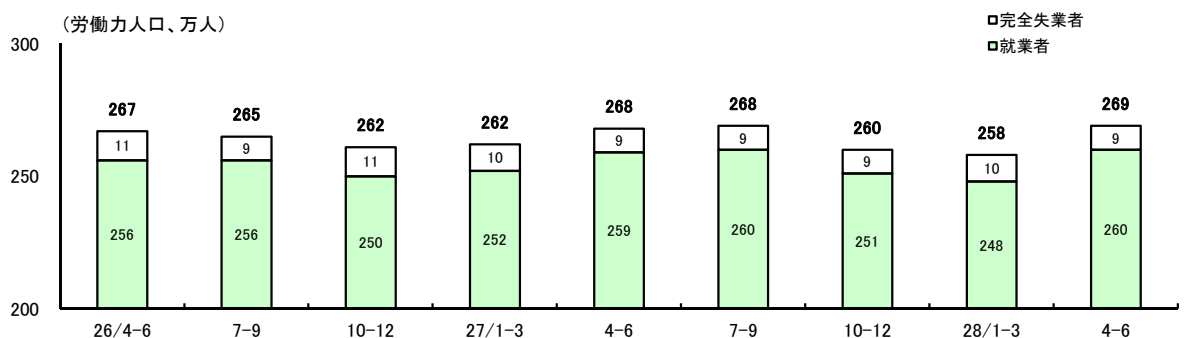


(厚生労働省及び北海道労働局調べ)

■失 業

◆完全失業者数、完全失業率（28年4-6月期）◆

完全失業者数は、9万人で前年同期と同数となっている。
完全失業率は、3.4%で前年同期と同率となっている。



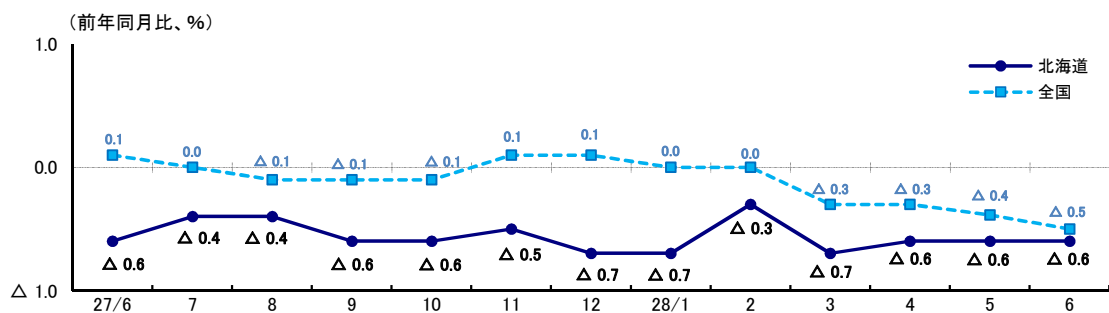
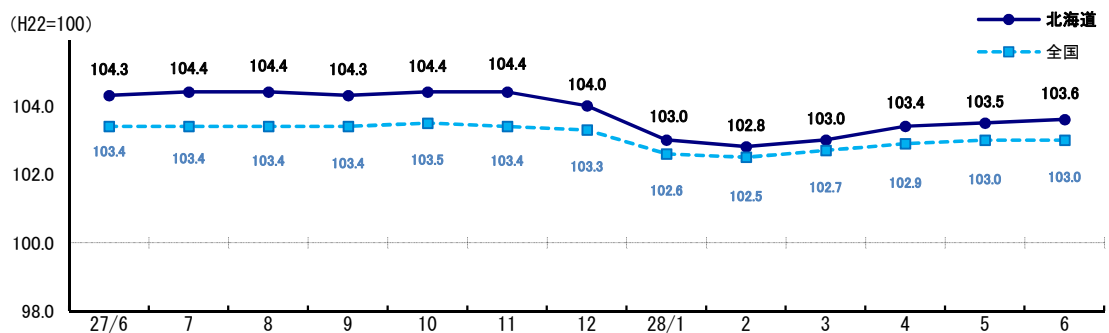
(総務省調べ)

[物価動向]

■物 価～消費者物価指数は前年を下回った

◆消費者物価指数（生鮮食品除く）（6月）◆

消費者物価指数は、103.6で前年同月と比べ0.6%の低下となり、15か月連続して前年を下回った。



(総務省調べ)

[企業情報]

■企業のみなさまから伺いました

◆百貨店(道央圏)

【インバウンドによる売れ筋商品の客単価が抑えられ売上が減少】

7月は、下旬に大雨となった日があったものの、全体を通して晴れた日が多く、前年同月と比べ土・日が2日多かったことなど売上に関してプラスとなる要因があったが、来店客数の減少やインバウンドの売れ筋商品が比較的単価の低い化粧品や雑貨類にシフトしていることなど客単価の低下が影響し、売上は前年を若干下回った。インバウンドの客数は増加しているため、今後、売上を如何にして伸ばしていくかが課題と考えている。

◆スーパー(道央圏)

【天候が売上に影響】

7月は、週末毎に天候が不順だったため、バーベキューなどの行楽需要がいまひとつだったほか、夏物の商品が思ったほど動かなかったが、前年より土・日が各1日多かったことから、売上は前年並みを確保することができた。ただ、今年はプレミアム商品券がなくなったことから、その反動で地方店の売上は減少傾向となった。

また、人手を確保するため、作業や労働条件の改善に取り組んでいる。

◆スーパー(道央圏)

【売上はほぼ横ばい】

7月は、道内産野菜、果物の販促、出来立て惣菜の充実などで生鮮食品の売上は堅調に推移し、前年と比べ営業日が1日少なかったものの、売上前年比はほぼ横ばいとなった。

週末の天候に恵まれず、低温が続いたこともあって夏物商材、特に、飲料、氷菓子、冷麺などの涼味商材や、メロンやさくらんぼなど果物ギフトの動きが鈍かった。

店内でお買い上げいただいた商品や、ご注文をいただいた商品をご自宅までお届けするサービスにも力を入れ、高齢者や子育て世代の支持を得ている。

【設備投資・為替の影響など】

新店舗の開設や、既存店の改装については毎年計画している。目的来店性を高める日用品の強化やテナントとの相乗効果もはかり安定した集客を目指している。

円高の影響により、輸入原料や燃料の価格が落ち着いているが、今後の展開については不安定要因が多く、楽観はしていない。

◆ドラッグストア(道央圏)

【売上は若干弱含み】

7月は、天候が悪く気温が上がらなかったため、季節商品などの動きが悪かったなど、売上は前年同月と比べて若干下回った。

中国人を中心とした外国人来道客の「爆買い」については、ブローカーが買いに来なくなったため、既存店ベースで売上が減少している。

【薬剤師などの人手不足】

正社員は概ね充足しているが、地域によってはパート社員が不足している。特に、地方店舗の調剤部門では、薬剤師の人手不足感が否めない。

【設備投資などの状況】

地域内でのシェア拡大に向けて集中的に新規出店に取り組んでいるほか、既存店舗のスクラップアンドビルドを進め、計画的に古い店舗の移転・改装を実施している。

◆コンビニエンスストア(道央圏)

【悪天候が売上に影響】

7月は、花火大会などの夏のイベントが全道各地で開催されたが、中旬以降に気温の低い日が続くなど全般的に天候に恵まれなかったため、週末の行楽客や海水浴客の需要が弱く、主力商品であるビールやアイスなどの売上が伸びなかったほか、函館地域では、北海道新幹線の関連工事が終了したことに伴う反動減が見受けられ、登別地域においては、外国人観光客の来店数が鈍化傾向にあるなど、売上は厳しい月となった。

◆旅行業(道央圏)

【売上は堅調に推移】

中国や東南アジア諸国の富裕層向けのツアーが主であり、6～7月は目標値を下回ったが、2～4月は好調であったことから、ほぼ計画どおりの堅調な動きとなった。

会社の認知度を上げるため、海外へのプロモーション活動などを積極的に実施しており、将来的には旅行業だけでなく、安全、安心な道産品の海外への輸出事業の展開も考えている。

【専門分野の人材に不足感】

アジアを中心とした富裕層は確実に増加してきているが、まだ富裕層全体の1%も取り込んでいない状況である。北海道は他県に比べて、専門スタッフが不足していることから、富裕層の取り込みに向けて、多様な趣向に対応するため、各分野の専門ガイドや通訳の養成が急務である。

【為替などの影響】

昨年までは、免税品の緩和措置や円安などで、一般の中国人などが多く来道したが、今年に入ってから円高基調で推移しているほか、中国の法改正により税関の規制が厳しくなったことで、いわゆる「爆買い」に一服感が見られる。

インバウンドの富裕層に関しては、円高になっても安定して来道している。

◆製造業(道央圏)

【売上は堅調に推移】

7月は前年と比較して堅調に推移しており、9月までは売上目標を達成する見込みである。受注生産方式を採っているため、注文を受けてから納品までに2～3ヶ月程度要することから、例年お盆や夏休みなどで受注が少なくなる7～8月の売上を伸ばすための取組を進め、10月以降の売上に繋げていきたいと考えている。

オーダーメイドによる製造形態のため、顧客の新規開拓が難しく、安定した売上を確保するために、魅力あるホームページへの改訂など、積極的なPRを展開していく予定である。

【人材の効率的な活用】

人手不足感はないが、今後は製造ラインの更新、製造設備の統一化を図るなど、機械化を進めていくことで、効率的な人員配置に努めていきたい。

【為替などの影響】

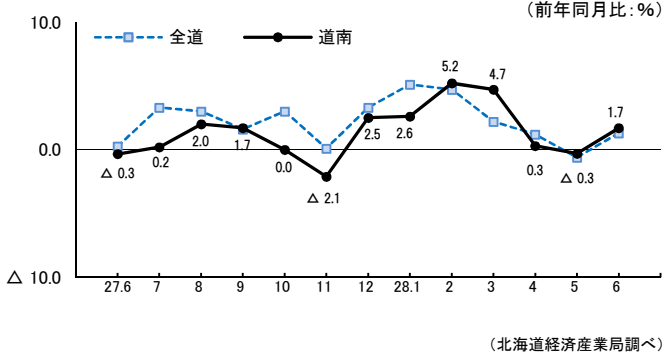
為替の影響としては、円安が進行すると受注先の海外注文が増加するが、輸入原材料費が高騰するためコスト増になり、逆に、円高になると輸入原材料は安く調達出来るが、受注自体が減ってしまうことから、1ドル110円～120円程度が理想の為替相場と考えている。

[地域の経済動向]

■道南圏

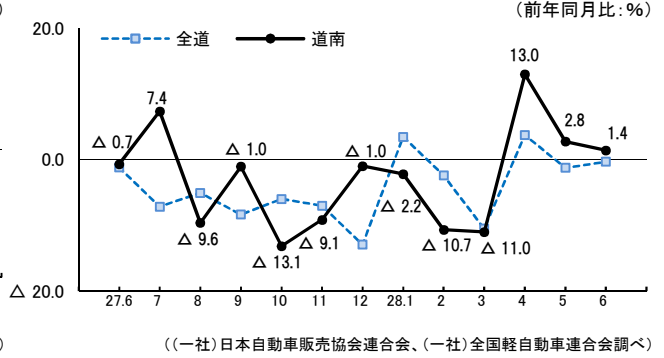
◆百貨店・スーパー販売額(全店)(6月)◆

(全店、函館市)
2か月ぶりに前年を上回った



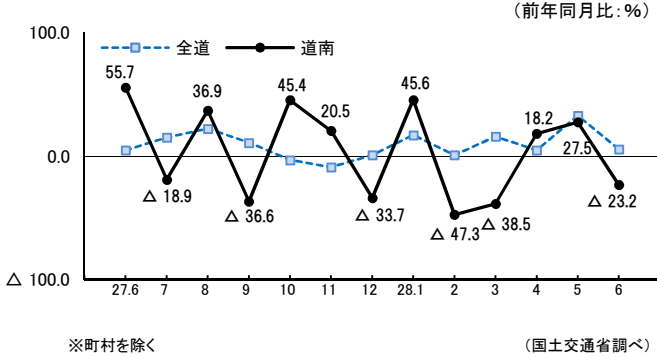
◆新車登録台数(乗用車)(6月)◆

3か月連続で前年を上回った



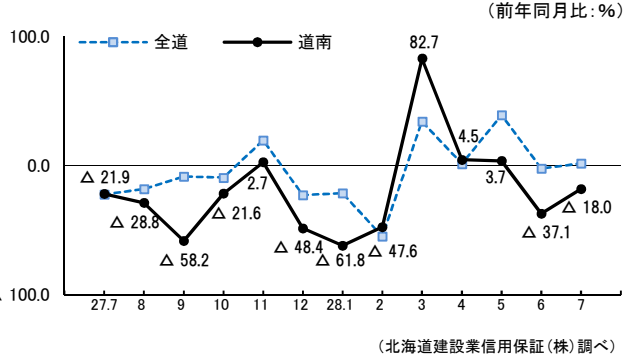
◆新設住宅着工戸数(6月)◆

3か月ぶりに前年を下回った



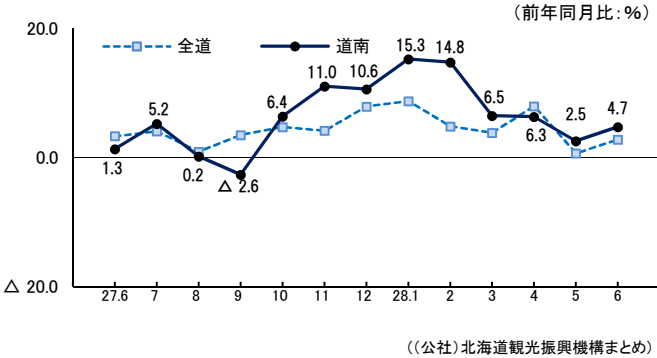
◆公共工事請負金額(7月)◆

2か月連続で前年を下回った



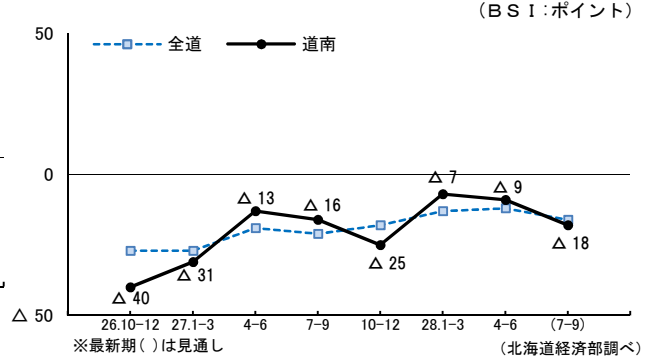
◆航空機利用による来道者数(着地別)(6月)◆

9か月連続で前年を上回った



◆企業の業況感(4-6月期)◆

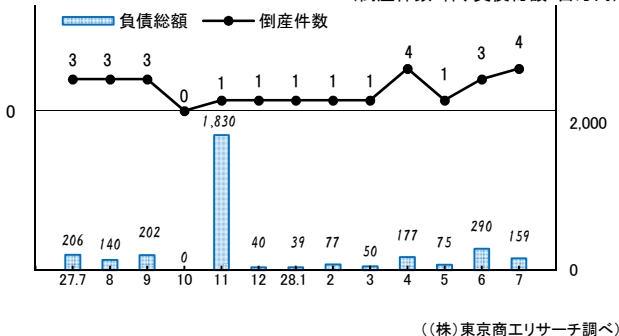
前期からマイナス幅が拡大した



◆企業倒産件数・負債総額(7月)◆

10億円以上の大型倒産は発生しなかった

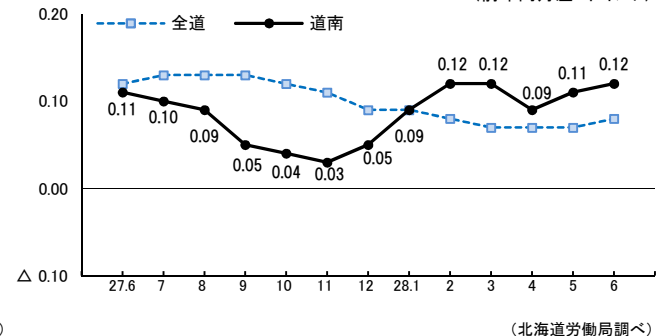
(倒産件数:件、負債総額:百万円)



◆有効求人倍率(6月)◆

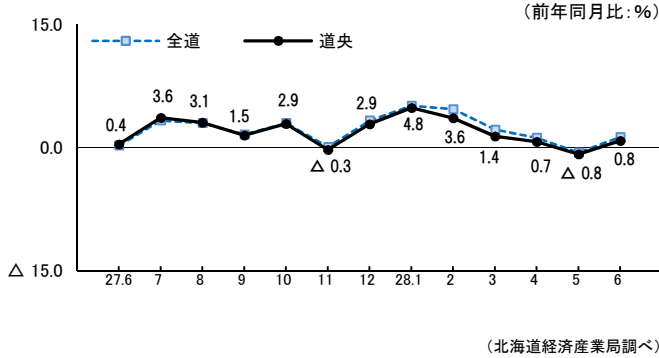
74か月連続で前年を上回った

(前年同月差:ポイント)

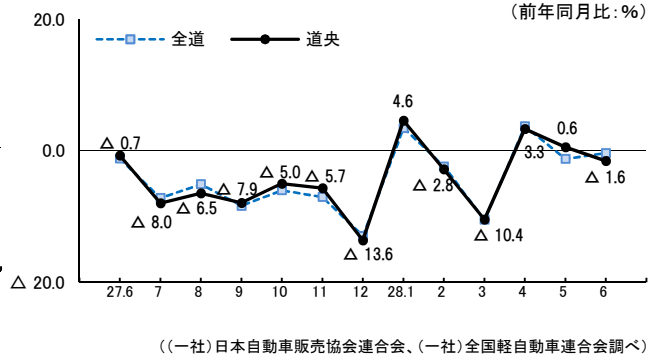


■道央圏

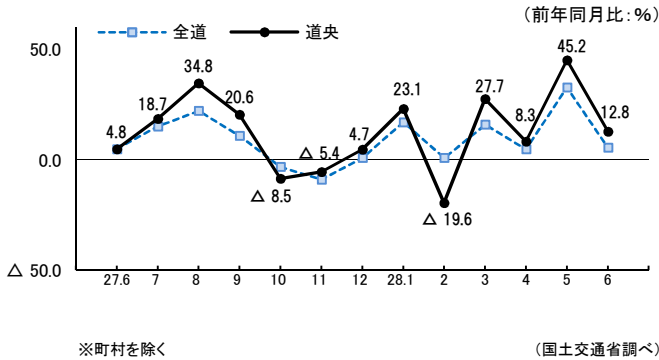
◆百貨店・スーパー販売額(全店)(6月)◆ (全店、札幌市・小樽市・苫小牧市・室蘭市) 2か月ぶりに前年を上回った



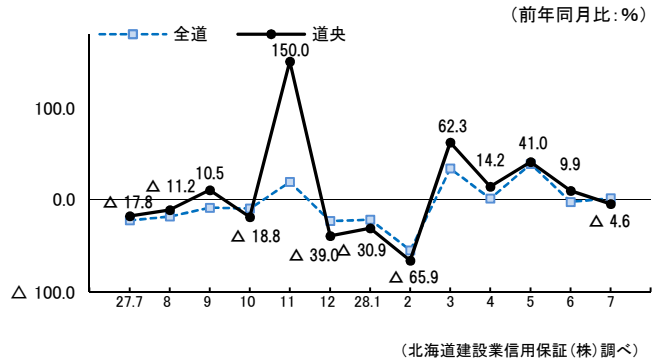
◆新車登録台数(乗用車)(6月)◆ 3か月ぶりに前年を下回った



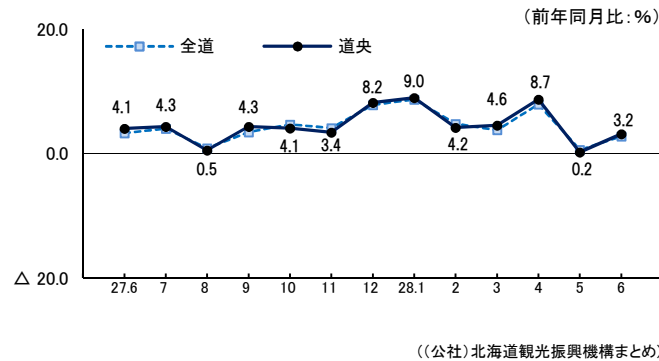
◆新設住宅着工戸数(6月)◆ 4か月連続で前年を上回った



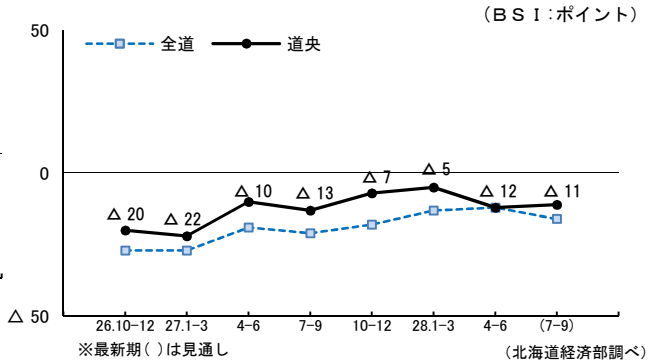
◆公共工事請負金額(7月)◆ 5か月ぶりに前年を下回った



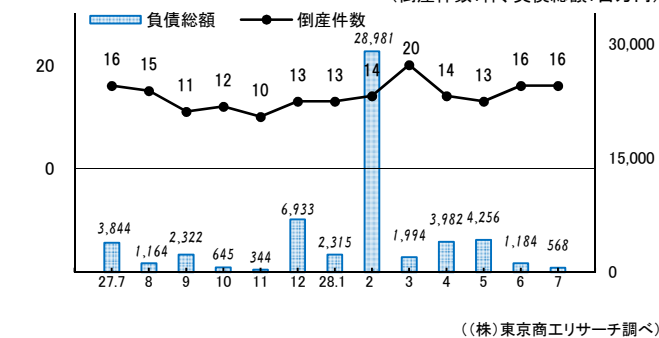
◆航空機利用による来道者数(着地別)(6月)◆ 24か月連続で前年を上回った



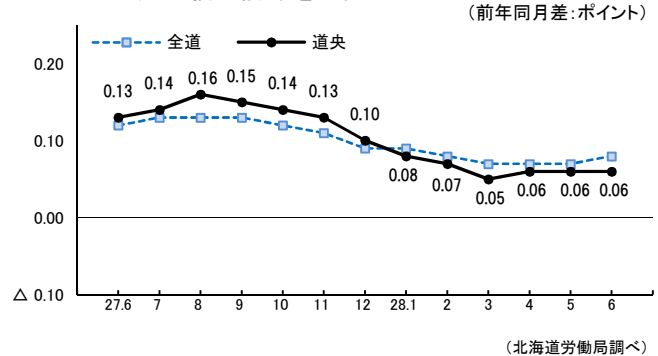
◆企業の業況感(4-6月期)◆ 前期からマイナス幅が拡大した



◆企業倒産件数・負債総額(7月)◆ 10億円以上の大型倒産は発生しなかった



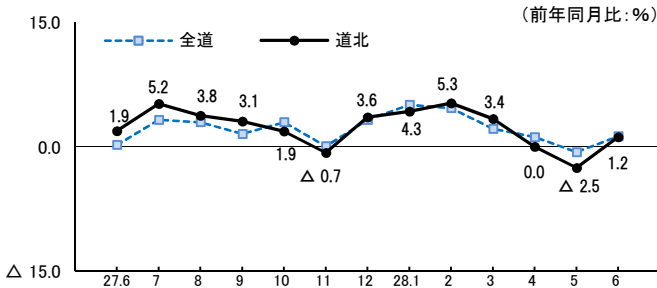
◆有効求人倍率(6月)◆ 76か月連続で前年を上回った



道北圏

◆百貨店・スーパー販売額(全店)(6月)◆

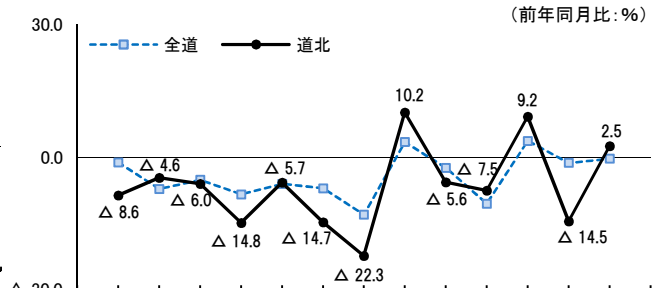
(全店、旭川市)
2か月ぶりに前年を上回った



(北海道経済産業局調べ)

◆新車登録台数(乗用車)(6月)◆

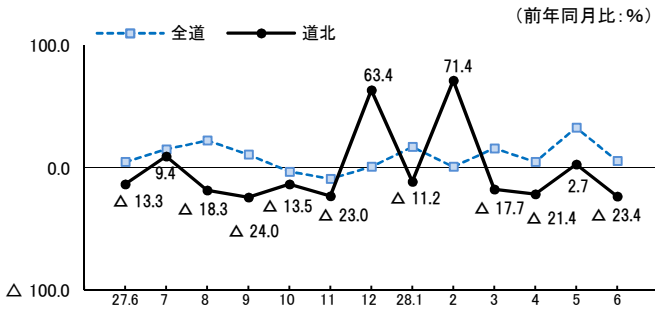
2か月ぶりに前年を上回った



(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会調べ

◆新設住宅着工戸数(6月)◆

2か月ぶりに前年を下回った

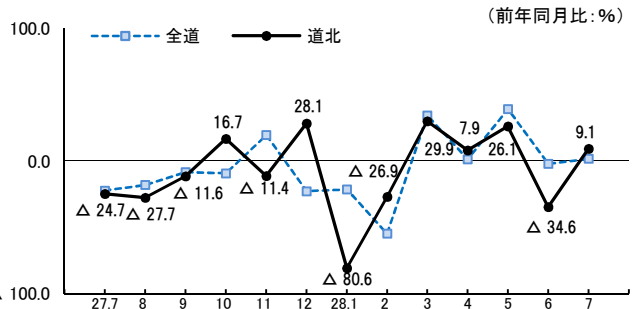


※町村を除く

(国土交通省調べ)

◆公共工事請負金額(7月)◆

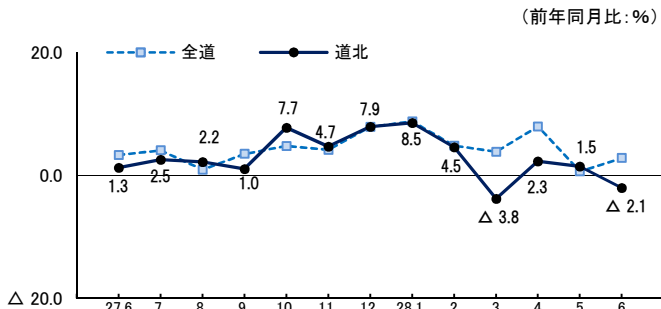
2か月ぶりに前年を上回った



(北海道建設業信用保証(株)調べ)

◆航空機利用による来道者数(着地別)(6月)◆

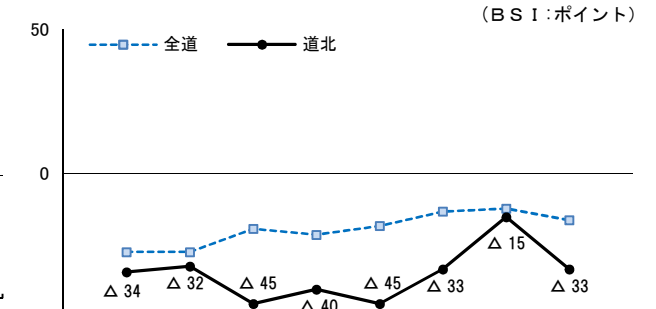
3か月ぶりに前年を下回った



((公社)北海道観光振興機構まとめ)

◆企業の業況感(4-6月期)◆

前期からマイナス幅が縮小した



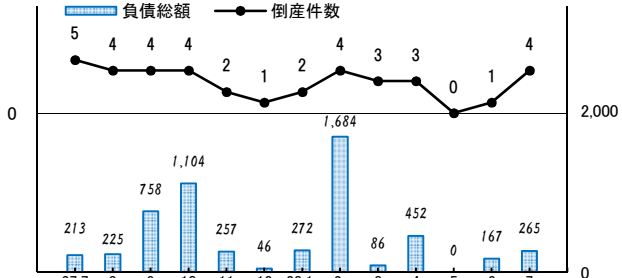
※最新期()は見通し

(北海道経済部調べ)

◆企業倒産件数・負債総額(7月)◆

10億円以上の大型倒産は発生しなかった

(倒産件数:件、負債総額:百万円)

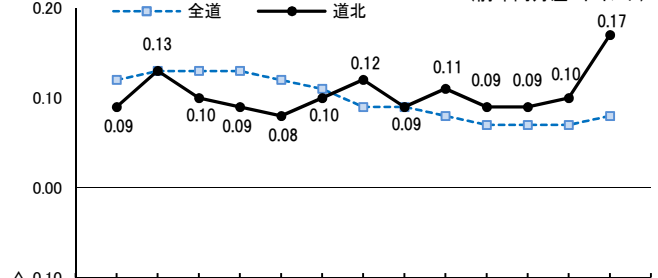


(株)東京商工リサーチ調べ

◆有効求人倍率(6月)◆

78か月連続で前年を上回った

(前年同月差:ポイント)

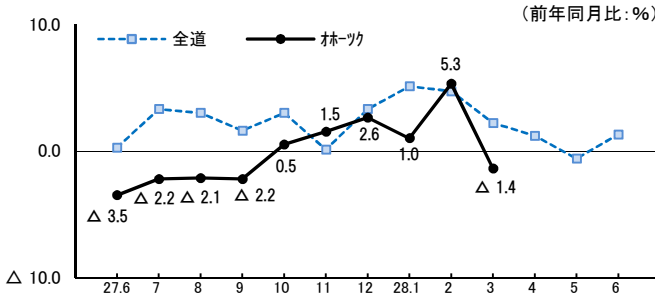


(北海道労働局調べ)

■オホーツク圏

◆主要小売店売上高（全店）（3月）◆

6か月ぶりに前年を下回った

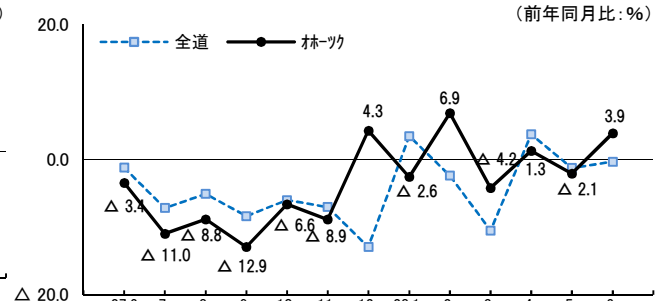


※全道は大型小売店販売額

(北海道財務局北見出張所調べ)

◆新車登録台数(乗用車)（6月）◆

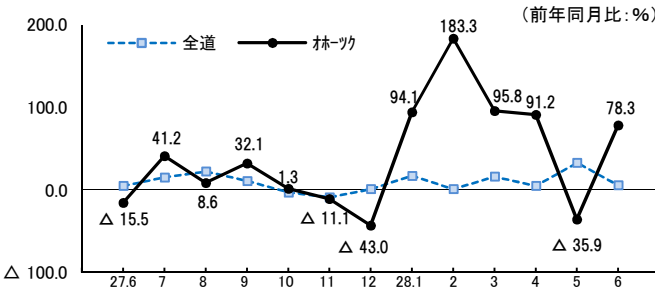
2か月ぶりに前年を上回った



(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会調べ

◆新設住宅着工戸数（6月）◆

2か月ぶりに前年を上回った

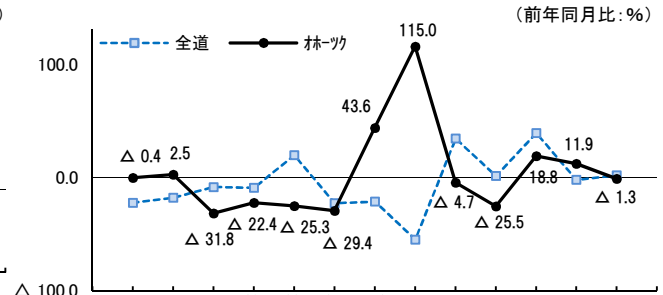


※町村を除く

(国土交通省調べ)

◆公共工事請負金額（7月）◆

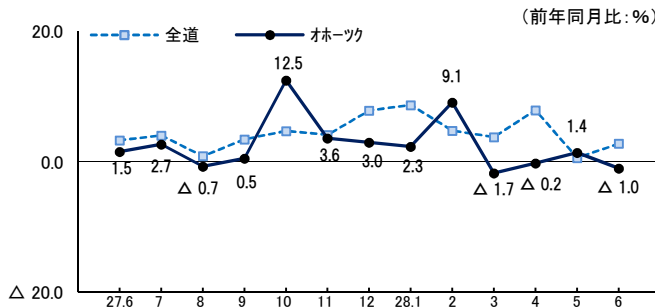
3か月ぶりに前年を下回った



(北海道建設業信用保証(株)調べ)

◆航空機利用による来道者数(着地別)（6月）◆

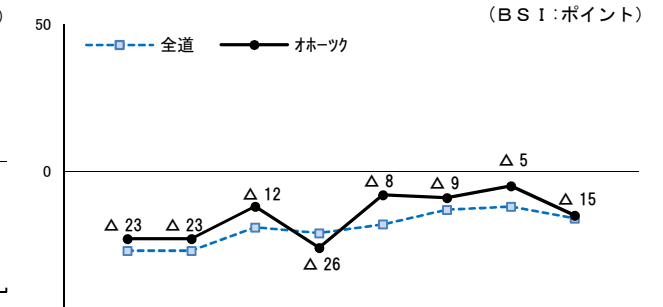
2か月ぶりに前年を下回った



((公社)北海道観光振興機構まとめ)

◆企業の業況感（4-6月期）◆

前期からマイナス幅が縮小した

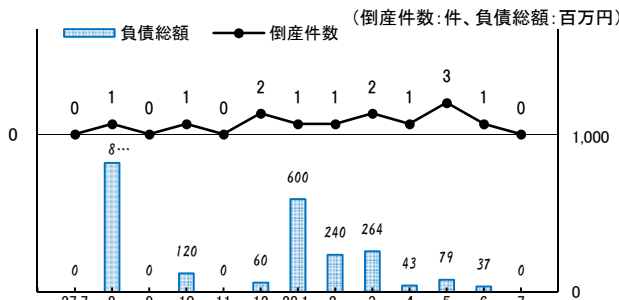


※最新期()は見通し

(北海道経済部調べ)

◆企業倒産件数・負債総額（7月）◆

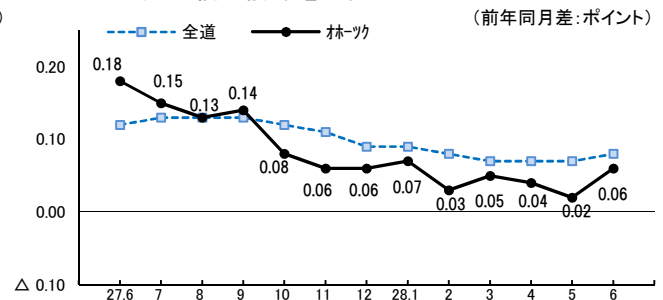
倒産は発生しなかった



(株)東京商工リサーチ調べ

◆有効求人倍率（6月）◆

81か月連続で前年を上回った



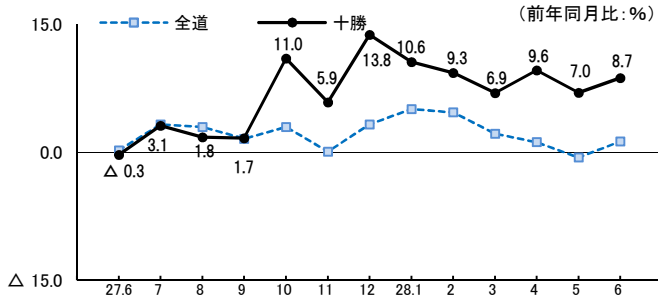
(北海道労働局調べ)

■十勝圏

◆百貨店・スーパー販売額(全店)(6月)◆

(全店、帯広市)

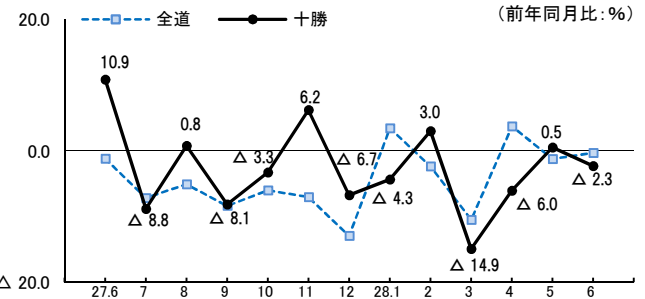
12か月連続で前年を上回った



(北海道経済産業局調べ)

◆新車登録台数(乗用車)(6月)◆

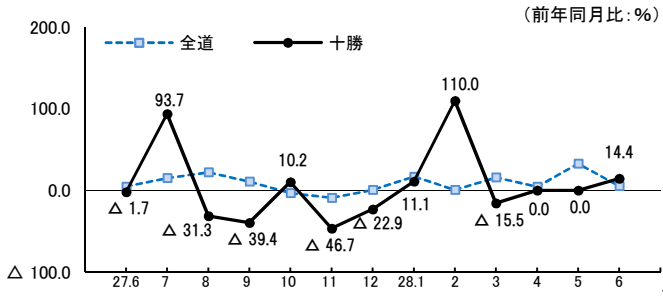
2か月ぶりに前年を下回った



((一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会調べ)

◆新設住宅着工戸数(6月)◆

4か月ぶりに前年を上回った

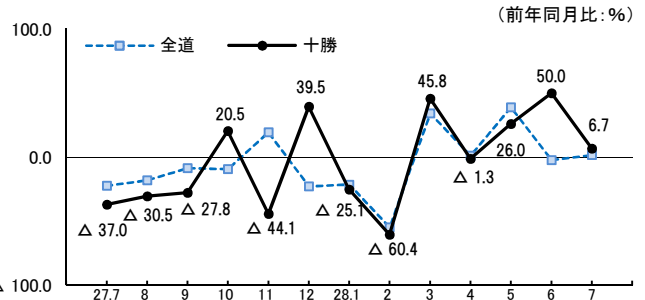


※町村を除く

(国土交通省調べ)

◆公共工事請負金額(7月)◆

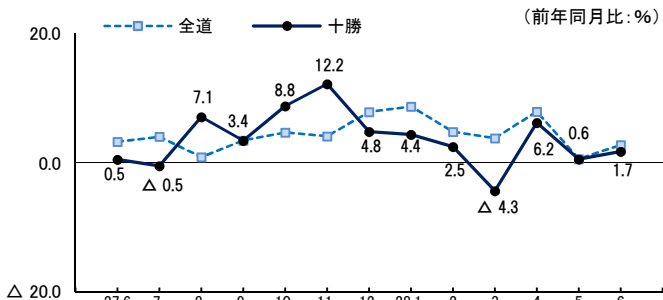
3か月連続で前年を上回った



(北海道建設業信用保証(株)調べ)

◆航空機利用による来道者数(着地別)(6月)◆

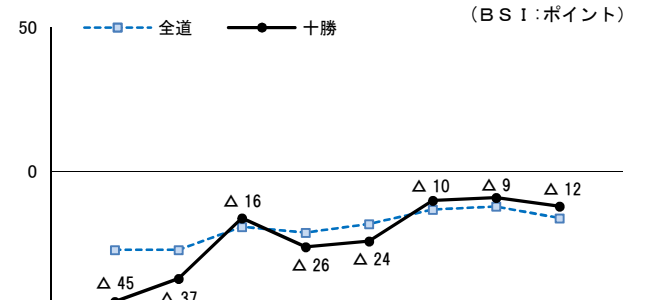
3か月連続で前年を上回った



((公社)北海道観光振興機構まとめ)

◆企業の業況感(4-6月期)◆

前期からマイナス幅が縮小した



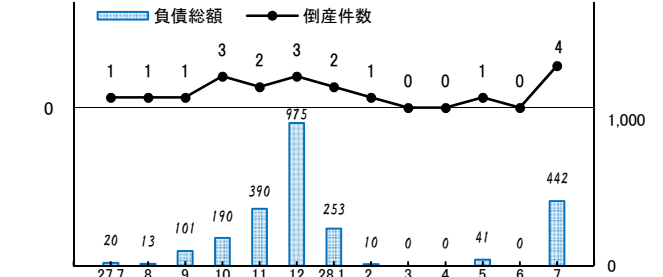
※最新期()は見通し

(北海道経済部調べ)

◆企業倒産件数・負債総額(7月)◆

10億円以上の大型倒産は発生しなかった

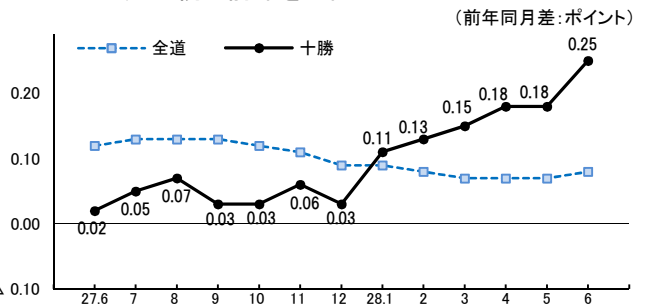
(倒産件数:件、負債総額:百万円)



(株)東京商工リサーチ調べ)

◆有効求人倍率(6月)◆

19か月連続で前年を上回った

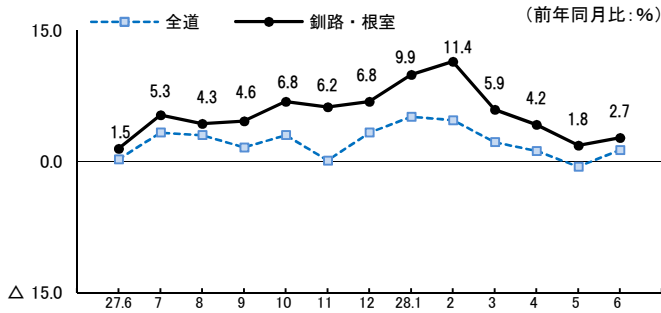


(北海道労働局調べ)

■釧路・根室圏

◆百貨店・スーパー販売額(全店)(6月)◆

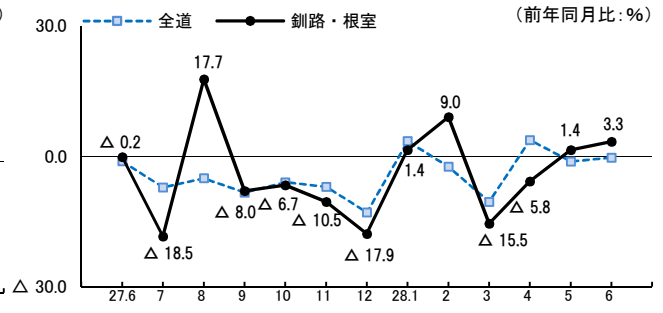
(全店、釧路市)
15か月連続で前年を上回った



(北海道経済産業局調べ)

◆新車登録台数(乗用車)(6月)◆

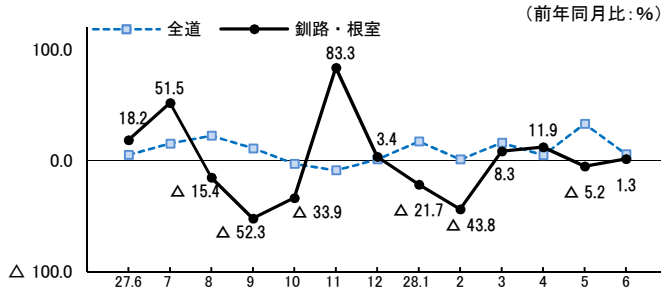
2か月連続で前年を上回った



(一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車連合会調べ

◆新設住宅着工戸数(6月)◆

2か月ぶりに前年を上回った

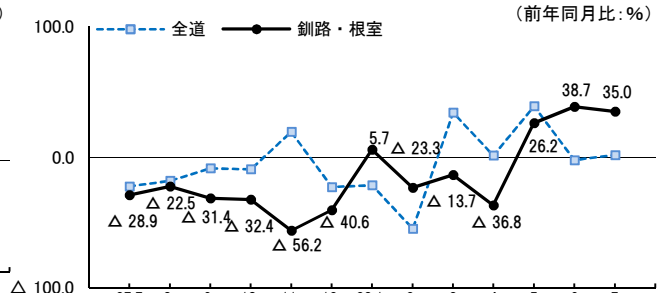


※町村を除く

(国土交通省調べ)

◆公共工事請負金額(7月)◆

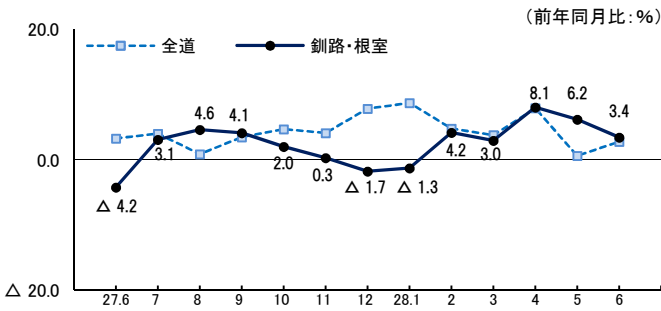
3か月連続で前年を上回った



(北海道建設業信用保証(株)調べ)

◆航空機利用による来道者数(着地別)(6月)◆

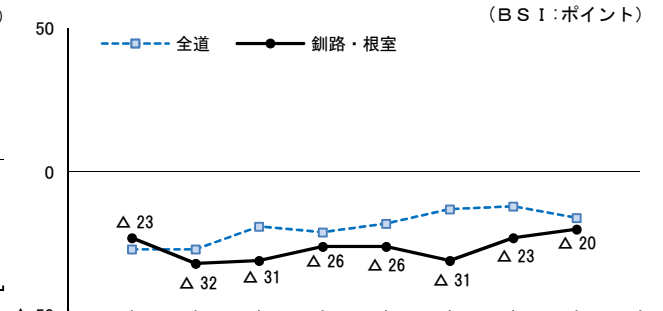
5か月連続で前年を上回った



((公社)北海道観光振興機構まとめ)

◆企業の業況感(4-6月期)◆

前期からマイナス幅が縮小した



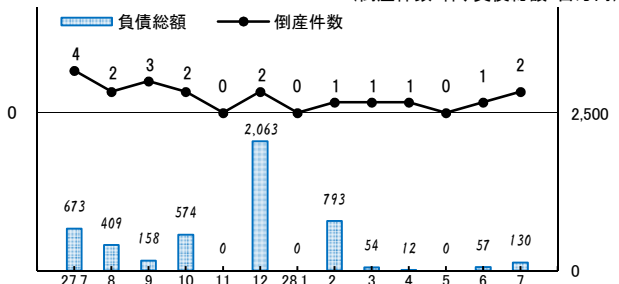
※最新期()は見通し

(北海道経済部調べ)

◆企業倒産件数・負債総額(7月)◆

10億円以上の大型倒産は発生しなかった

(倒産件数:件、負債総額:百万円)

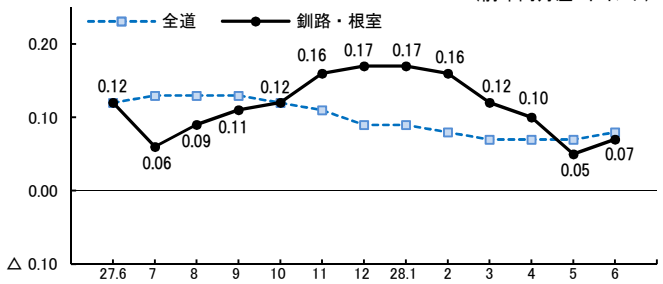


(株)東京商工リサーチ調べ

◆有効求人倍率(6月)◆

79か月連続で前年を上回った

(前年同月差:ポイント)

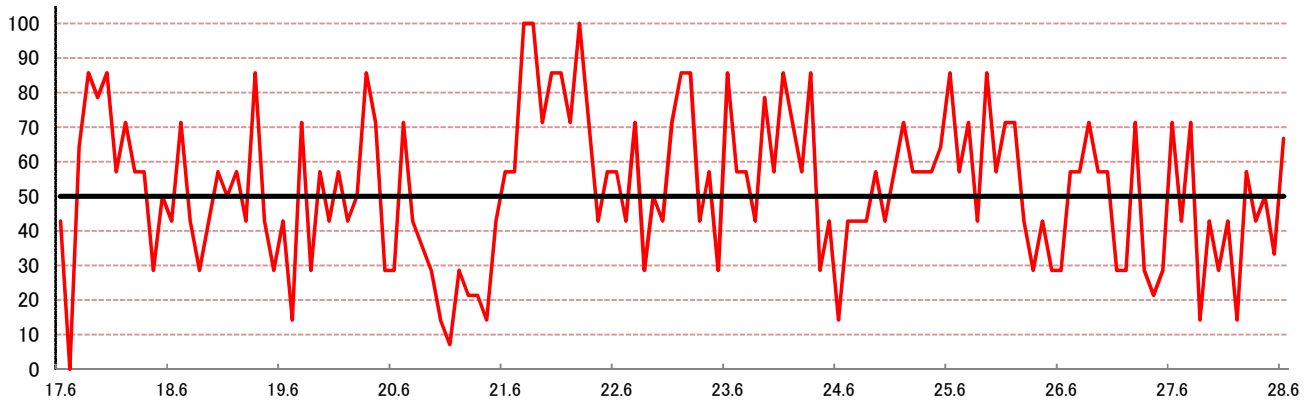


(北海道労働局調べ)

[景気動向指数・全国の景気]

■ 北海道の景気動向指数

景気動向指数(一致系列)グラフ



景気動向指数(先行・一致・遅行)変化

系 列 名		27/ 6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28/ 1月	2月	3月	4月	5月	6月	
先 行 系 列	新規求人数(新規学卒を除く全数)	+	+	+	-	+	-	+	+	+	-	-	-	+	
	雇用保険受給者実人員(逆サイクル)	+	+	-	+	-	-	-	-	+	-	+	+	+	
	生産指数(生産財)	+	-	+	-	-	-	-	-	-	+	+	r +	p -	
	新車登録台数(軽を含む乗用車)	-	+	-	-	+	-	+	+	-	-	-	-	+	+
	新設住宅着工戸数	+	+	+	+	-	-	-	-	+	+	+	+	-	
	企業倒産件数(逆サイクル)	+	-	-	-	+	+	+	+	-	+	+	+	-	
	企業業況判断D.I.	+	-	-	-	+	+	+	0	0	0	0	+	+	
	拡張系列数	6	4	3	2	4	2	4	3.5	3.5	3.5	4.5	6	4	
	採用系列数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	
	先行指数	85.7	57.1	42.9	28.6	57.1	28.6	57.1	50.0	50.0	50.0	64.3	r 85.7	p 57.1	
一 致 系 列	有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	-	-	+	-	-	-	+	+	+	-	-	-	+	
	生産指数(鉱工業)	-	+	+	-	-	-	-	+	-	+	+	r -	p +	
	出荷指数(生産財)	-	-	+	-	-	+	-	-	-	+	+	r -	p -	
	大口電力使用量	+	-	-	-	+	-	-	-	+	-	-	-	-	
	百貨店販売額(既存店)	+	-	-	+	-	-	+	-	+	-	-	r -	p +	
	着工建築物数(鉱業、建設業用+製造業用)	+	+	+	-	+	-	+	-	+	+	+	+	-	
	輸入通関実績(原油及び粗油を除く)	+	+	+	-	+	+	-	-	-	-	-	r +	p +	
	拡張系列数	5	3	5	1	3	2	3	1	4	3	3	2	4	
	採用系列数	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	
	一致指数	71.4	42.9	71.4	14.3	42.9	28.6	42.9	14.3	57.1	42.9	50.0	r 33.3	p 66.7	
遅 行 系 列	常用雇用指数(規模30人以上)	-	-	+	+	-	+	+	+	+	-	-	-	-	
	完全失業率(逆サイクル)	-	-	-	-	+	+	+	0	0	-	-	-	0	
	消費者物価指数(総合)	-	+	+	-	-	0	-	-	0	-	+	-	-	
	家計消費支出(二人以上の勤労者世帯)	-	-	-	+	+	+	-	-	-	-	-	+	-	
	生産指数(資本財)	+	+	-	+	-	+	-	-	-	-	+	r -	p +	
	拡張系列数	1	2	2	3	2	4.5	2	0.5	2	0	2	1	1.5	
	採用系列数	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	
遅行指数	20.0	40.0	40.0	60.0	40.0	90.0	40.0	10.0	40.0	0.0	40.0	r 20.0	p 37.5		

(注) 1 北海道経済部経済企画局経済企画課試算。Pは速報値、rは確報値。

2 景気動向指数(Diffusion Index 略してDI)は、景気に敏感な諸指標を選定し、そのうち上昇(拡張)を示している指標の割合を示すものであり、景気局面の判断、予測と景気転換点(景気の山・谷)の判定に用いる。採用系列の各月の値を3か月前の値と比較して、増加した時には+を、保合いの時には0を、減少した時には-をつける(変化方向表)。その上で、先行、一致、遅行の各系列群ごとに採用系列数に占める拡張系列数(+の数)の割合(%)をDIとする。

DI=拡張系列数/採用系列数×100(%) (保合い(0)の場合は0.5としてカウントする。)

■全国の景気

我が国経済の基調判断

～景気は、このところ弱さもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。～

- ・個人消費は、消費者マインドに足踏みがみられるなか、おおむね横ばいとなっている。
- ・設備投資は、持ち直しの動きがみられる。
- ・輸出は、おおむね横ばいとなっている。
- ・生産は、横ばいとなっている。
- ・企業収益は、高い水準にあるものの、改善に足踏みがみられる。企業の業況判断は、慎重さが増している。
- ・雇用情勢は、改善している。
- ・消費者物価は、横ばいとなっている。

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復に向かうことが期待される。ただし、海外経済で弱さがみられており、中国を始めとするアジア新興国や資源国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがある。また、英国のEU離脱問題など、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。さらに、平成28年(2016年)熊本地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

<内閣府月例経済報告(平成28.8.24)から抜粋>

最近の経済動向
平成28年8月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>